

二見中だより 第19号

全クラブ3年生、一つの区切り

10月24、25日の文化祭。11月3日の二見町合同文化祭、明石市音楽の集い。そして11月4日の定期演奏会で文化部3年生の活動が一段落し、全クラブの3年生がクラブ活動に区切りをつけた。文化部員はだいたいこの時期まで部活動があるので、夏には引退（この言葉は好きではありませんが）した運動部員を横目に最後までよく頑張ったと思います。またお手伝いをしてくれた3年生もありがとうございました。

こんな話があります。どなたの随筆だったか失念しましたが、学生時代、入院していた恩師のお見舞いに行ったそうです。恩師はもはや意識朦朧としていました。学生は叫びました、「先生！死なないでください、僕はまだ先生に何のご恩返しもできていません！」すると急に恩師は信じられないぐらいはっきりした声でこう言ったそうです、「アホ！こんな死にかけのじじいに恩返ししても意味ない、お前に続く人に恩返しせんかえ！」

自分の試合の合い間にサッカー部員も駆け付けた定期演奏会での、吹奏楽部の3年生の最後の挨拶はどれも立派でした。その中で「受けた恩を周囲の人に返していきたい」と話した人がいて、ふとこの話を思い出しました。文化部の皆さんも部活動で学んだことを、これからの大切な思い出にして、生活に活かして欲しいと思っています。よく頑張りました。



HPアクセス 連日1000越え！

以前パティシエの小山 進氏（エスコヤマ社長）の講演を聞いたとき、「更新されないHPは誰も見なくなる」とおっしゃっていました。その点二見中のHPはよく更新され、連日アクセス数は1000を超えています。学校や生徒の頑張りを伝えようとしていますが、個人情報保護の観点から、掲載しきれないものがあるのは残念です。今後とも見ごたえのある、有益な情報をお届けするHPとなるよう取り組んでいきたいと思っております。一方、HPの危険性も十分意識しながら掲載できるようにもしていきます。今後ともどうぞ楽しくご覧ください。



Y君の思い出と今の活躍



先日、つけていたテレビから同級生で友人のY君の声が聞こえてきた。「おっ！Yまた出ると！今日は防波堤からジギングで青物狙いか！」サンテレビ木曜夜10時、「ビッグ・フィッシング」に彼は時々出演し、カメラの前で好きな釣りに興じ、お茶の間に釣果を披露している。実はY君は進路（夢）をつかみ取った人物の1人で、今回それを少しお話ししたい。

小学校時代から釣りが大好きで、彼の話聞いた多くの先生が「ふ～ん」の中、「釣りが好き！Y君、それは素晴らしい！」と褒めてくれた先生との出会いによってさらにのめり込み、中学時代からは釣人のバイブル『関西のつり』（休刊中）に釣行を投稿するなど、腕前はプロ級であった。

やりだすと突き詰めなければ気が済まない性格で、ギター、車、バイクなど、とことんやり、中学はバレーボール、高校はサッカー、大学は空手と様々な部に所属していた。印象深いのは中3の時、インスタントラーメンに興味を覚え、あらゆるインスタントラーメンをずっと食べ続けていた。ついに体を壊し、見舞いに行った私に「結論、一番うまいのは〇〇や」と銘柄を告げたのを最後に、インスタントラーメンは卒業した。

同じく中3時、彼は受検勉強そっちのけで学級独自の卒業文集を編集したが、その文面も印象深い。はっきりと『これ以上の科学はいらない』と述べていた。彼は自然を愛していたので環境破壊を許せなかった。また、科学の発展が人の物欲を増大させること、便利すぎる世の中は人間本来が持つ生きる力を減退させることの方を危惧していた。だから、環境と人命を守る以外の科学は、もう今のレベルで十分だという作文は説得力があった。

絶対釣りに関する仕事に就くと豪語していた彼は大学を出て、ドライフラワーを作る会社に就職した。「やっぱり就職となると、なかなか夢をかなえることは難しいのか、あれだけ言ったのに・・・」と思ったが、彼は一旦そうしただけだった。その後本当に西脇市の釣り好きはみんな知っている、某釣り具メーカーに再就職した。私は驚くとともに、夢をかなえた姿に敬意を表した。そこで彼は新たな仕掛け開発に取り組んでいる。仕掛けを開発すると、本当に魚が釣れるか試さなければならない。だから彼の釣りは“仕事”であり、釣行は“出張”となる。何とも羨ましい限りである。現在の企業のご多分に漏れず、彼の勤め先も中国に工場を持っている。彼は時々中国にも渡り、製造についてアドバイスもしている。

釣りに行くと食べきれないほど釣ってくるので、同じマンションの人たちは彼が釣ってくる新鮮で、おいしい魚を配ってもらえる。エレベーターで会う子どもたちが「おっちゃん、今度はどこ行くの？」と聞いてくる人気者だ。彼はラグビー選手顔負けの体格であるが、その理由もおもしろい、「これぐらい鍛えておかないと、マグロと格闘できん。」

『芸は身を助ける。』私の知らない悩み、苦しみもきっとあるのだろうが、彼を見ていると羨ましくて仕方がない。しかし今の彼の生活は自身の情熱と努力で勝ち取ったものであり、決して“棚からぼたもち”ではないのである。

機会があればまた番組を見てほしい。松坂大輔選手をちょっと悪そうにした顔で、肩幅の広い、テレビは素人のくせに妙に堂々と話している男が出ていたら、それがY君である。

